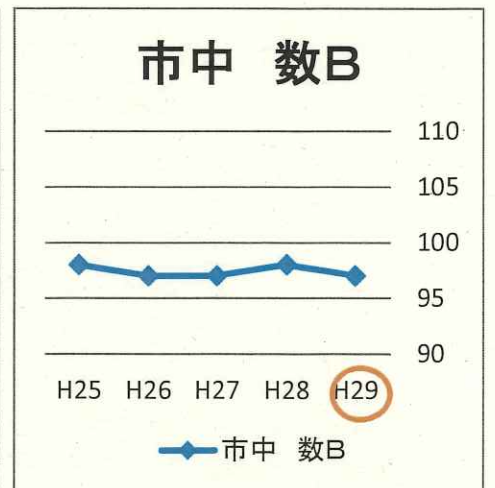
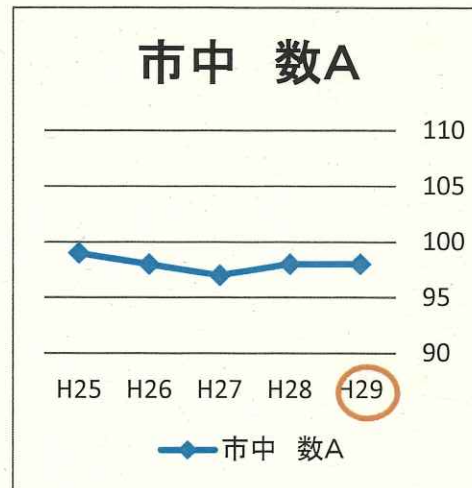
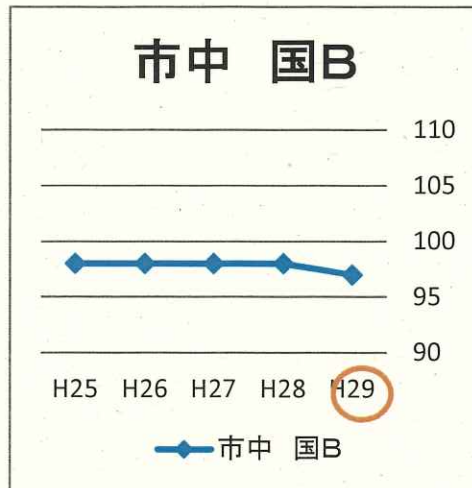
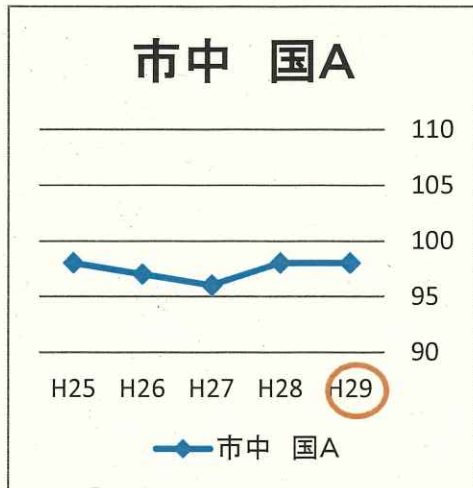
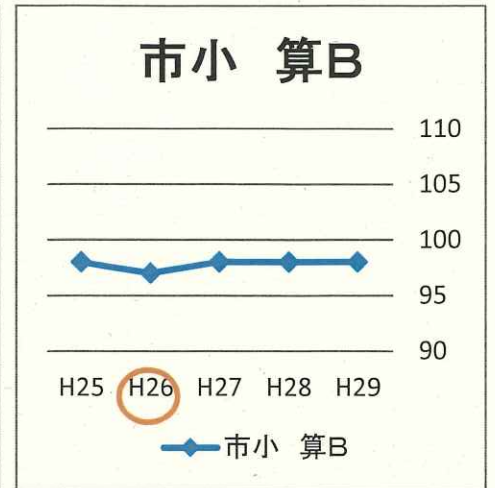
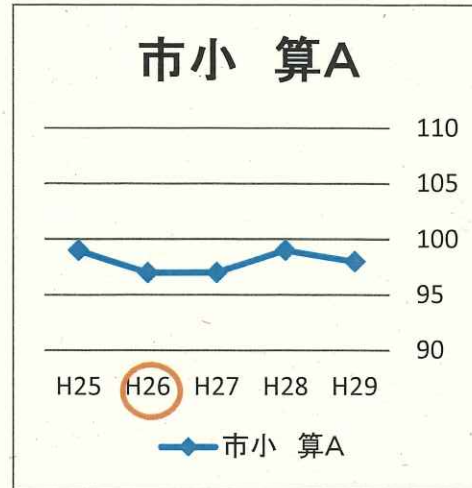
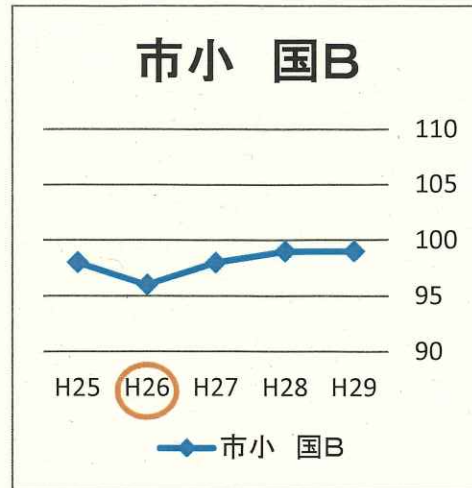
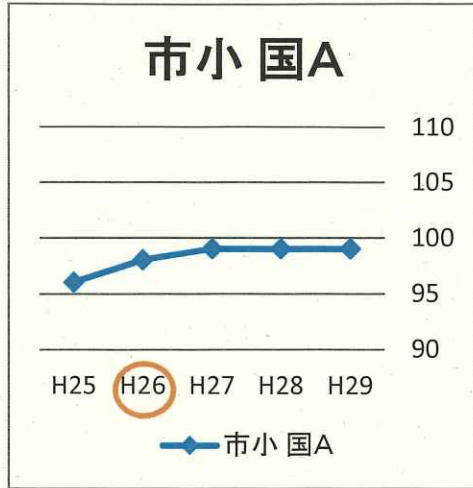


全国学力調査における経年変化 H25～29 * 全国の平均正答数を100としたときの、本市の平均正答数の割合

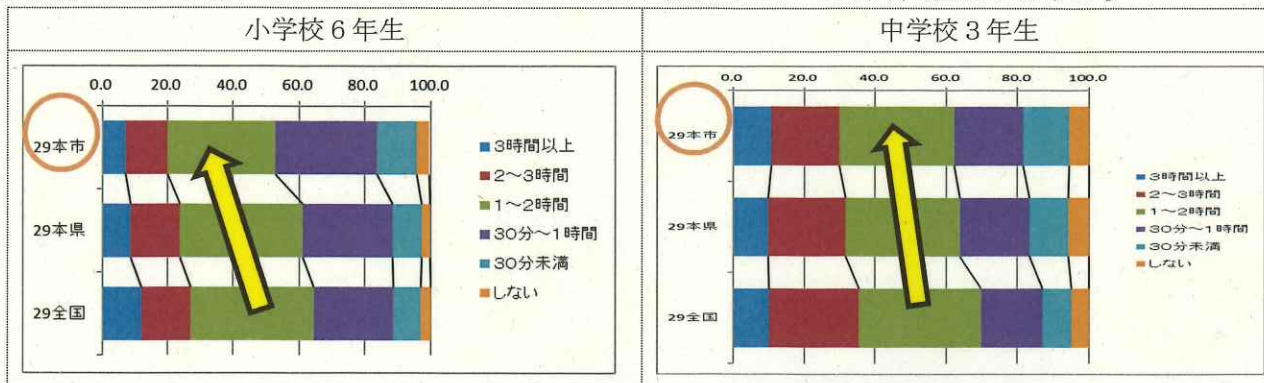


平成26年度に小学校6年生で受検した児童 → 今年度(平成29年度)中学校3年生で受検した生徒

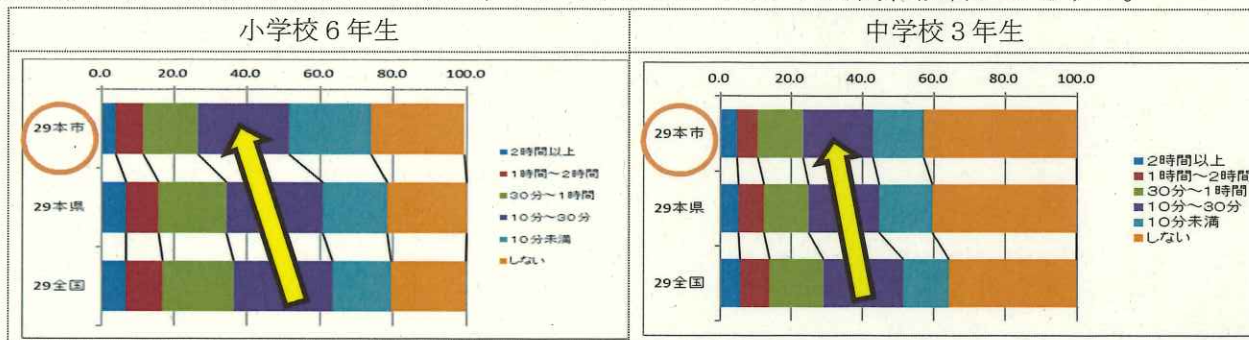
全国学習状況調査から〈本市の児童生徒の学習状況〉

- 小学校では宿題をしている割合はかなり高く、復習をしている割合も増えている。
- 中学校では自分で計画的に学習を進める力がついてきている。
- ▲小・中学校とも家庭学習の時間が増えてきているが、全国と比較すると少ない。
- ▲小・中学校とも読書をする習慣に課題が見られ、一日に10分未満もしくは読書をしない割合が約半数である。
- ▲小・中学校ともテレビ（電子）ゲームをする時間は改善されてきたが、まだ課題が見られる。
- ▲3時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている割合は、小学校は全国と比べて低い、中学校は全国と比べて高い。

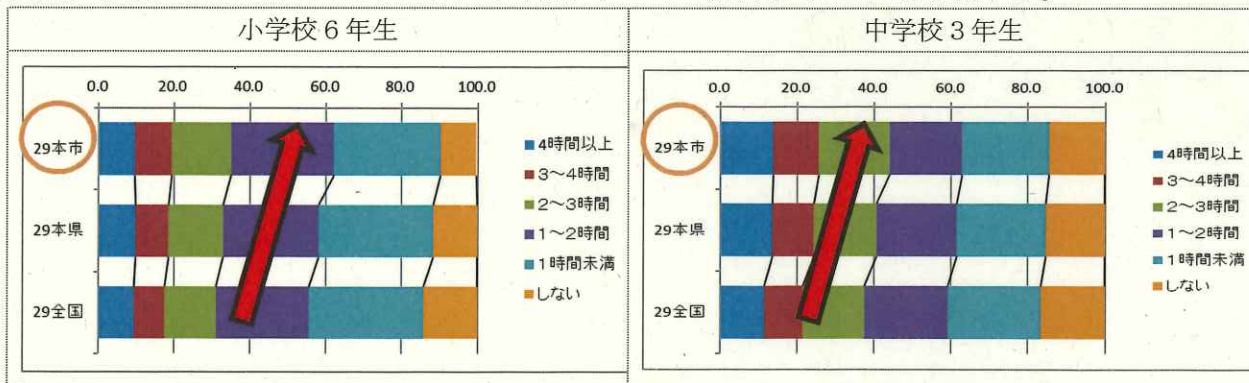
【設問】学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。



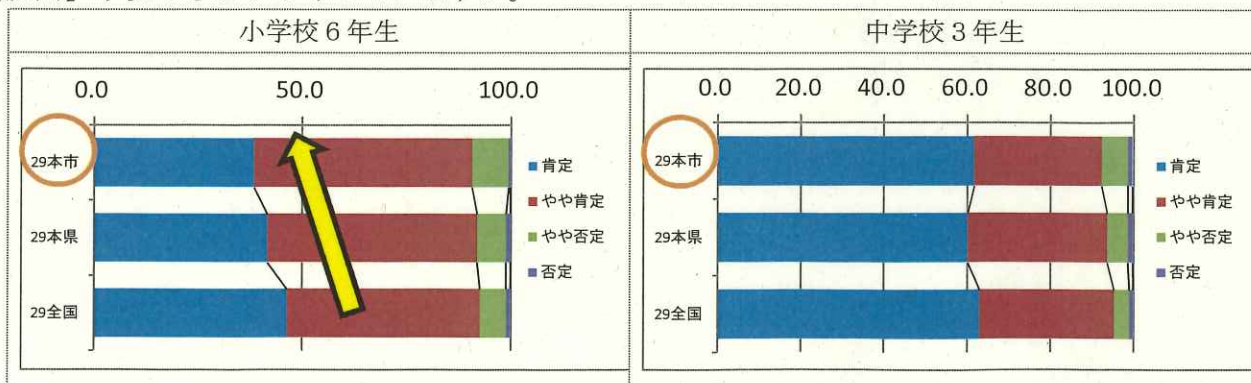
【設問】学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。



【設問】普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビ（電子）ゲームをしますか。

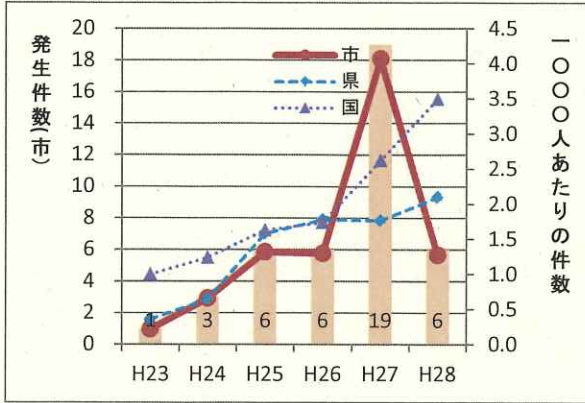


【設問】学校のきまりを守っていますか。



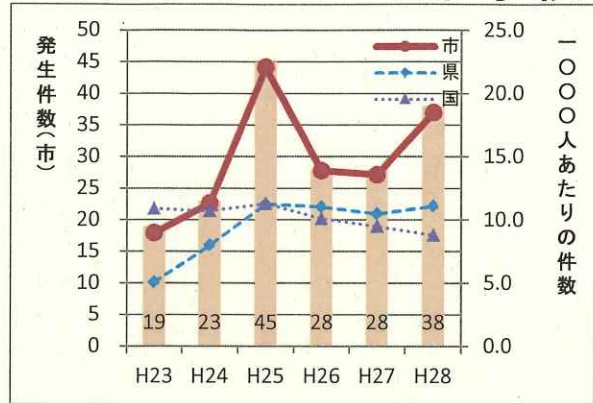
問題行動等・不登校の状況 (H23~H28)

小学校



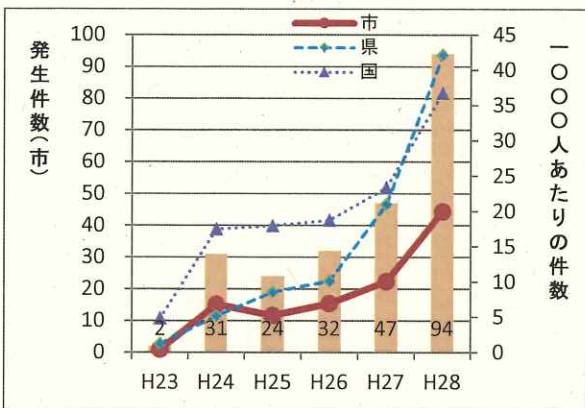
小学校の暴力行為の発生件数は、昨年度に比べて大きく減少している。

中学校

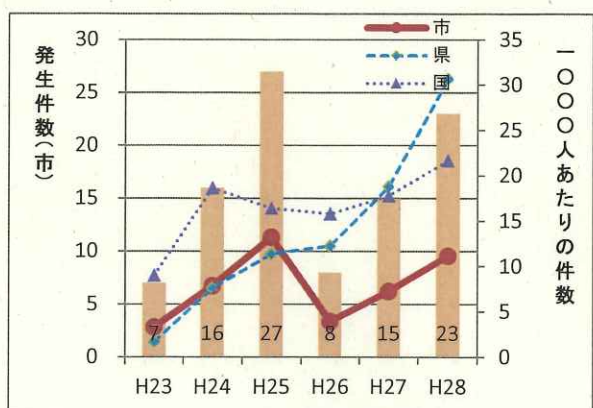


H28年度は対教師暴力の発生件数が増加し、暴力行為としての発生件数も増加している。

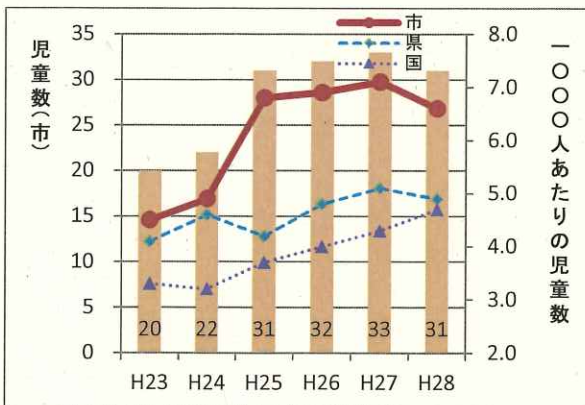
暴力行為



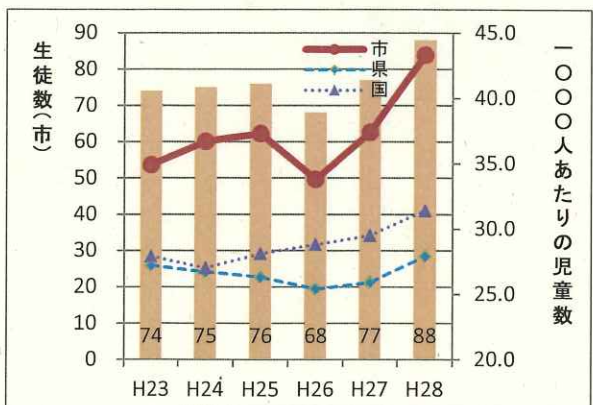
いじめ



認知件数は増加しているのだが、早期発見ができていないと肯定的に理解している。ただ、1000人あたりの件数を国や県と比べると、小・中学校ともに、有意に少ないことが見受けられる。まだまだ、市内教職員のいじめ認知への意識(感度)が低いことが伺える。一つひとつの事案が深刻化せず改善に向かうよう、早期支援・対応に結び付けていくことが重要である。



不登校(公立)



昨年度までに引き続き、(国・県に対して)在籍率が高い状態であるが、H28年度は減少に転じている。

昨年度までに引き続き、(国・県に対して)在籍率が高い状態である。H28年度は特に、中学校1年生に、新たに不登校になる生徒が多く見られた。